



特定非営利活動法人えひめ盲ろう者友の会会報

———— 2017-夏号 ————

2017年 6月 発行

～もくじ～

1. 理事長あいさつ
2. ニューフェイス紹介
3. 2月交流会「うどんすき」と「笑いヨガ」
4. 盲ろう者のためのケア付き住宅「ミッキーハウス」に見学に行ってきました！！
5. 耳の日のつどい
6. お花見交流会
7. 盲ろうコミュニケーションクラブ
8. 今後の行事予定
9. 編集後記



ご 挨拶

理事長 高橋 信行

清々しい初夏を迎えています。皆様におかれましては、いよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より盲ろう者支援活動にご理解とご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

さて、皆さまは友の会がいつどのようにして誕生したのか、ご存じでしょうか。年月が流れ、皆が年を重ね、構成メンバーも替わり、この事についてご存じの方が少なくなりました。ここで、皆さまに整理してお示しする必要があるかと思い、筆を執っている次第です。

当然のことながら、初めから盲ろう者友の会が愛媛にあったわけではありません。全国各所に盲ろう者友の会が誕生しつつあった時代の話です。私は、愛媛においても、友の会が必要であると考え、準備会の結成を周囲に呼びかけを始めたのが1998年3月1日です。最初の交流会は友輪荘で同年7月11日に開催されました。更に盲ろうの啓発を目的とした「ニューイヤーマろうコンサート」という手話付きロックコンサートを開いたのが翌年の1月10日です。

こうした働きかけが実り、7月24日に初めての総会を開き「えひめ視聴覚障害者と友に歩む会」が結成されました。10月1日に準備会から正式な友の会へ、2001年6月23日にはNPO法人化して、現在の「特定非営利活動法人えひめ盲ろう者友の会」となりました。

こうした経緯から、「友の会はいつできたのか？」と訊かれれば、私は「最初に総会を開いた1999年7月24日だ」とお答えしたいと思います。

そうすると再来年、友の会は結成20周年を迎えるということでしょうか。「もう、そんなに立つのだなぁ」とか、「よく続けてこられたなぁ」と振り返って感心したりします。友の会が今日まで活動してこられたのは皆様のご理解とご協力のおかげです。

20周年には是非、皆でお祝いをしましょう。

これからも、盲ろう者、支援者の皆で頑張って活動していきましょう。よろしくお願いします。



ニューフェイス紹介

竹上照子（たけがみてるこ）

こんにちは。私は、竹上照子です。昨年の9月から仲間入りさせていただきました。歳のせいかなあ・・・覚えにくくて・・・皆さんの足手まといになるばかりです。家にいると、誰とも話すことがありません。でも、皆さんと一緒にいると、時間がたつのが早くてとても楽しいです。ありがとう！！

3月は会えなかったね。でも、『4月には会える日がある！』と楽しみにしています。

昨日、ふと思いつき、一人で道後公園に行き、梅の花や桜の花に触れてきました。まだまだ固いつぼみや、少し柔らかくなったつぼみなど、色々ありました。足元にはハトが何か欲しそうにもつれてきました。「あのね、わたし、耳も聞こえず目も見えないの。踏まれちゃうよ。」と言って手を差し出したら、手にくちばしでコツコツとまるで合図するかのよう。「はいはい。わかったよ。また、来るよ。」と言って、公園北口の階段を降りると、ハトはついてこず見送ってくれました。仕事をしているときには、炒った豆を持って行ってやったものです。懐かしい思い出です。

ところで、近頃は物騒で安心して歩けませんね。ボタン式信号を押して待っていると、優しいドライバーさんは「青よ。渡りなさい。」と教えてください。かと思えば、スピードを上げて通り過ぎていく人もいます。人それぞれです。皆さんも気をつけてくださいね。

また、皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。これからもよ

ろしくお願いします。

岡井光世（おかいてるよ）

愛媛県松山市衣山町の岡井光世です。

去年の春頃、稲葉哲也さんが「耳が聞こえにくいですか？指點字を習いませんか？」と誘って下さり、お仲間に入れていただきました。指點字はなかなか難しく、1年近くたった今、遅いながら少しは解るようになりました。が、相手と打ち合ってお話をするとしたら、できないような気がします。しかし、この会に入れていただいてよかったと感謝しています。

以前は、聞こえなくても聞こえるふりをしたり、補聴器を付けているのを隠すように髪を長くしたり苦労しました。この会に参加していると、みんな一緒なのだと気持ちがらくになります。目も耳も足も悪い私ですが、後わずかの人生を、私らしく一生懸命生きていきますので、みなさんどうぞよろしくお願いいたします。

中嶋千枝（なかじまちえ）

はじめまして、中嶋千枝と申します。

盲ろう者通訳・ガイドヘルパー養成講座の受講を機に入会いたしました。コミュニケーションクラブには中学2年の息子と、小学2年生の娘と一緒に参加しています。息子はハリーポッターに憧れるのんびりマイペースなタイプです。娘はグラビアアイドルのスタイルに憧れる、積極的で忙しいタイプです。そして私は子どもの弁当を作り忘れる、うっかり八兵衛ならぬ、うっかり母ちゃんです。

私たち親子は空手を習っています。息子は黒帯、私は茶帯、娘は緑帯です。私たちが習っている空手で大切にしていることは「絆や思いやり」です。私たちが空手を習い始めてから変わったこと、それは心身ともに元気になったということです。人と人との関わりは生きる源になると感じています。

友の会を通じて皆さんと交流を深め、自分自身さらに元気に、そして皆さんにも元気を伝えられるようになればうれしいです。よろしくお願いします。

久保啓子（くぼけいこ）

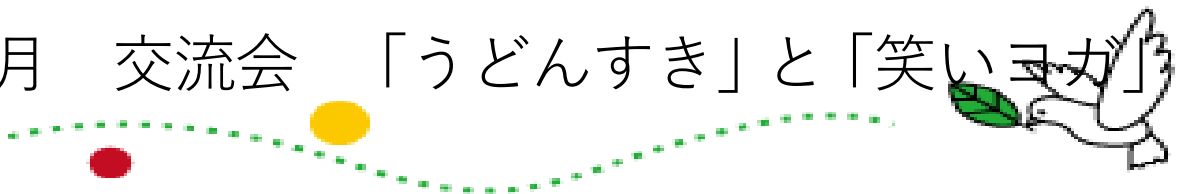
はじめまして。久保啓子と申します。平成28年度の盲ろう者通訳ガイドヘルパー養成講座を受講した事がきっかけで、この会に入会しました。まだまだ指点字も手話も始めたばかりでわからないことが多いですが色々なことを学びたいと思っています。

最近の楽しみは猫と遊ぶことです。まだ飼い始めて日が浅いのでびっくりすることが多いです。猫じゃらしの使い方を猫に教えてもらい、ようやく遊んでもらえるようになってきました！

趣味は本を読むこと、音楽を聴くことです。好きな本は『モモ』『銀河鉄道の夜』です。

ご迷惑おかけすることが多いと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

2月 交流会 「うどんすき」と「笑いヨガ」



日時：平成29年2月5日（日曜日）10:00～15:00

場所：松山市総合福祉センター 4階 調理室

報告者：中西信廣

2月の冷たい雨の降る中でしたが盲ろう者5名、健常者・健聴者18名の合計23名のたくさんの方が集まりました。盲ろう者5名（高橋さん、真鍋さん、岡井さん、竹上さん、ベー・中西のこと）の五つの班を作り、午後からの「笑いヨガ」の、小倉（おぐら）先生がベーの班に入ってくださり、理事長の挨拶のあと、早速、うどんすき調理が始まりました。

皆さん、色とりどりの綺麗で可愛いエプロンの花が咲いていたと思います。調理が進み、鍋からおいしそうなおいがして、おなかが「グウ～」となります。かなり量が多かったですが、どんぶり2杯食べましたよ。参加された皆さんも、作る時や食べる時には、ワイワイガヤガ

や本当に楽しそうでした。

やはり、みんなで作ったものを、みなでお話して笑って食べるっていいものですね。また、やりたいですね。皆さんは、いかがでしたか？ベーのアシストとして、準備やお買い物などたくさんのお手伝いをしてくださった時岡さん、笑いヨガでみんなを楽しませてくださった小倉先生、そして参加して下さった皆さん、お疲れ様でした。

これからも交流会に参加して、一緒に楽しく笑いましょう！お待ちしております！！



参加者から感想をいただきました

うどんすきを体験して

真鍋法子

まつつんから、「こんな行事があるよ」と連絡をもらって、是非参加したい！と思いました。朝早いバスに乗るため、早朝に家を出発しましたが、前々から楽しみにしていたので全然苦ではありませんでした。うどんすきはとても美味しかったです。午後からの笑いヨガもとっても楽しかったです。また、機会があったら参加したいです。

野々宮りさ（中3）

初めて盲ろう者が包丁を使っているのを見て、大きさも揃っていて手を切らなくてすごい！と思いました。野菜がたっぷり入っていて、苦手なものもあったけれど、皆で作って皆で食べるのはとっても美味しかったです。

フォリィに再会できてとても嬉しかったです。たくさん遊んであげました。

通訳しているのを間近で見て、手のひらに書いて伝えるのや、耳元でしゃべって伝えているのを見て、盲ろう者に伝えようとするときは、通訳の人が大変なので、ゆっくりはっきり話さないといけないなと感じました。今日はとても楽しかったです。また、次回も参加したいと思います。

野々宮真子（小6）

久しぶりに友の会に参加しました。うどんすきをつくりました。食べるときに野菜が多くてうどんまでたどりつきませんでした。久しぶりに会ったターザンは、とってもかわいかったけれど、フォリィの方がもっとかわいいと思いました。

柳井紀子

2月5日（日）、松山市総合福祉センターの調理室でうどんすき交流会があり、参加しました。レシピが各グループに配布され、それを読んでみると、昆布とかつお節で出汁を作ったり、白菜とほうれん草を重ねて巻いたものを具材にしたりと本格的なうどんすきができあがるようで、興味を持って調理に臨みました。

グループには岡井さん、野々宮さんが娘さん2人と一緒に参加され、5人グループで行いました。途中、他のグループの様子を見つつ、分担をしながら何とかうどんすきが出来あがりしました。美味しく出来たとは思いますが、大量に作りすぎたため食べきれなかったのが残念です。

調理や食事をしながら楽しく交流ができ、とてもいい時間を過ごせました。諸々の準備を担当していただいた役員の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

笑いヨガを体験して

武市教子

まだまだ寒い日々が続いていますが、我が家の庭にはチューリップが頭を出し、木々が芽を出し、春の訪れを感じている今日この頃です。久しぶりに友の会の交流会に参加しました。

新しく入会された、Tさんとご一緒させて頂きました。＜笑いヨガ＞って何？どんなことをするのか？と楽しみにしていましたが、先生の元気に引き込まれ、身体を動かしたり、大きな声で笑うことが出来ました。盲ろうの皆さんも、参加の子供たちも楽しそうでした。雑多な日々の中、愛想笑いはすれども（笑）腹の底から笑うことが少なくなってるなあ、と感じた一日でした。毎日笑って過ごしたいですね。

講師の先生、ありがとうございました。＜笑いヨガ＞に感謝です！！

竹上照子

楽しかったです！ゼーんぶ良かったです！今習ったことを、家でぼちぼちやってみようと思います。認知症予防にもなるし元気になる、っておっしゃっていましたがものね。本当に今日はとっても楽しかったです。また、参加したいです！！

田井さやか

ゴロゴロと引きこもった生活をしていましたが、数年ぶりに玄関を開け外へ出てきた野々宮です。引きこもっている間に、すっかり貫禄たっぷりのボディになった私に「笑いヨガ」は、手をたたくだけで二の腕にも背中にも効きました……。こんなにも鈍っていたなんて……と、自分が可笑しくなりましたが、認知症予防にもなる動きなどなど収穫も沢山あり、とても充実した時間を過ごすことができました。

矢野佳子

「うどんすきと笑いヨガ」に真鍋さんと参加しました。うどんすきでは、真鍋さんに野菜を洗ったり切ったりしていただきました。とても手際よく作業してくださったので、調理がはかどりました。うどんすきは出汁の利いたやさしい味で、気持ちも温まりました。片付けでも、手際よく食器を洗ってくださり、大活躍でした。

笑いヨガでは、真鍋さんの手を取り、一緒に動きました。大きな声を出しながら体を動かすのは、とても気持ちがいいですね。認知症予防の指折りは、今も続けています。皆さん笑顔いっぱいの楽しい一日でした。



「笑いヨガ」講師、小倉裕子さんより皆さんにメッセージをいただきました

笑いは心の健康の源です。おかしくて笑っても、おかしくなくて笑っても、私たちの脳は「笑った」と感じてくれます。また、普段私たちは、おなかの底から声を出して笑うことは滅多にありませんよね。しっかり声を出して笑ってください。一人が笑うと伝染してみんなが笑うように



なります。皆さん笑ってくださいね。



盲ろう者のためのケア付き住宅「ミッキーハウス」

見学に行ってきました！！

日時：平成29年2月19日（日曜日）

場所：NPO法人視聴覚二重障害者福祉センター
スマイル

稲葉哲也

昨年末、全国盲ろう者協会から送られてきた雑誌とともに、ケア付き住宅「ミッキーハウス」の見学のお知らせが同封されていました。私は「行きたい！！」と思い、その段取りを始めましたが、なかなかスケジュールが決まらず やっと1週間前に大凡の行程が決まり、いざ！大阪に！！

出席者は、名簿には126人と記されていましたが、どうもそれ以上の方々が来られていたようです。初めに、会場となっていたスマイルの理事長門川慎一郎氏のご挨拶。それから、今回一番にご協力ご支援いただいた森田オーナー。さらに、大阪府ならびに大阪市の議員の祝辞がつづきました。それが終わりのよいよ施設見学。大勢の見学者で混雑しましたが、とても立派な施設でした。

再び、スマイルに戻り祝賀会ということで、軽い食事とお酒が振る舞われました。最後に、全国からかけつけた盲ろう者と、スマイルの盲ろう者の感想を述べる時間がもたれました。私は、今回の見学を通して強く思わされたのは、やはりこのような事業を成し遂げるのには、資金調達も大事な要素ですが、それとともに当事者の思いと大勢の支援者が必要であると感じました。門川氏の人脈でしょう。府や市の議員さんが5人も来賓としてこられていたことはたいへん驚きでした。政治力の活用も大切なんだと、改めて思われました。

終わりに、私は、現在の盲ろう者に対する福祉サービスや社会の認識度を考えると、ケア付き住宅での生活は安全で安心ではあるけど、将来的には盲ろう者が狭い居住空間での人生ではなく、普通の居住地に普通の生活が営まれる人生がおくれる環境が与えられる社会になってほしいと、強く願わざるを得ません。

稲葉春樹

2月19日、大阪に全国初の盲ろう者向けグループホームが完成し、記念式典が行われるということで、式典と見学に出席してきました。

このグループホームは、NPO法人視聴覚二重障害者福祉施設「スマイル」の理事長門川さんが中心となって立ち上げた施設です。私は、この一報を聞いた時「ぜったいに見に行くぞ」と思い、それが、どこにどんな風にできているのだろうか想像もつかずわくわくしていました。実際に行ってみると、場所はJR大阪環状線鶴橋駅からも近く、とても便利なところにありました。

まず、スマイルの事務所で記念式典が行われました。北は宮城、南は福岡まで、たくさんの盲ろう者が完成のお祝いに駆け付け、久しぶりの再会を喜んでいました。新しい施設への関心があることを伺えました。来賓で、大阪府議会と市議会の議員が出席されていたこと、また、協会の方もたくさんおられ、『完成するまでにはかなりのご苦労があったことだろう』と、門川理事長の努力に感動しました。

そして、いよいよ見学です。スマイルの事務所から数分のところに、5階立てのミッキーハウスがあり、1階は管理室と食堂など、2階から4階までは居室、そして5階は管理人控え室となっていました。早速、鏡開きとくす玉割りがあり、そのくす玉はかなり大きいものだと言われ、説明を受けました。

入り口には点字ブロックがあり、新しいにおいがしました。1階には他にトイレや調理室、和室があって、点字以外にもマークで男女が触れて見分けがつくようにしてあったり、大きい文字や色などにも、全盲ろう・全盲難聴・弱視難聴・弱視ろう、それぞれに対する工夫がなされていました。また、階ごとに色分けがしてあるので解りやすく、部屋も洗面台や押し入れなど、十分生活ができる環境になっていました。

浴室には、24時間体制で管理人がおられ、何かあった時にはボタンがどこで押されたか、管理室に解るようになっていてということ、と

ても安心です。後で聞いた話ですが、ホームに入るには一人10万円かかるそうです。

その後、祝賀会があり、たくさんの交流ができました。

最後になりましたが、この施設を完成させるまでには、議員さんやオーナーさんの理解と、何度も何度も行った住民説明会があったからこそできたんだなあと思いました。本当に素晴らしい施設でした。



日時 : 平成29年3月5日(日曜日) 10:00~14:30

場所 : 松山市総合福祉センター 1階

報告者 : 稲葉哲也

3月5日(日)松山市若草町の総合福祉センター1階で、えひめ盲ろう者友の会のブースを設け「もし目が見えなくなっても!」というテーマのもと、三つの体験コーナーを開催いたしました。

まず、最初のテーブルでは、私と柳井さんが触手話体験を担当し、私のにわか覚えの「おはよう・こんにちは・ありがとう」を、来場者にアイマスク着用してもらい、手話を知っている人には触って当ていただき、知らない人には説明しながら覚えてもらいました。

次のテーブルでは、指点字で名前を当て、その人と少しコミュニケーションをとるというコーナーを稲葉春樹が担当。午前中は相原さん、午後は半田さんに通訳をしていただきました。

今年度から始めた盲ろうコミュニケーションクラブで、指点字の練習を重ねてきた支援者にも、いつかどこかで活躍の場を・・・と思っていたので、今回、相原さんをお願いできたことは、とても意義があったし、担当の春樹からも素晴らしい完璧な通訳だったとのうれしい報告を受けました。主催者の発表によると来場者は1000人とのことで、かなりうるさかったため指点字での交流はとても成果があったようです。

そして、三つ目のテーブルでは、盲学校の和田先生が考案された「わきちじゃんけん」を体験してもらいました。これについては、担当の二宮さんから報告があると思うので、私からは省略いたします。通訳は田

井さんをお願いしました。また、今回新しい支援者の浅井さんご夫妻にも一日お手伝いいただきました。途中、かなり忙しい場面もありましたが、多くの方々に「よかったよ！」と言っていていただき、ほっとしています。

皆さまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。



参加者から感想をいただきました

二宮朋子

平成29年3月5日（日）に若草町の総合福祉センターで耳の日祭りのイベントがあり、友の会でもブースを出す事になりました。稲葉哲也さんが担当として動いて下さり、10時～14時30分の間で触手話、指点字体験、わきちじゃんけんの三つのコーナーを設けました。その中で私は、わきちじゃんけんを担当をしました。

わきちじゃんけんは、盲学校の和田先生が考案されたもので、見えない人同士でも触って相手が何を出したかすぐに分かるじゃんけんです。でも、それを初めての人に説明するのは、簡単なようで意外と難しいな・・・と感じました。今回は、晴眼者の方にも同じ条件でアイマスクを着けてやってもらいました。お客さんの年齢層は、ちびっ子から年輩の方まで幅広く、沢山参加していただけて良かったです。普段、子供たちと接する機会がないので、今回久しぶりに一緒にじゃんけんをして楽しかったです。

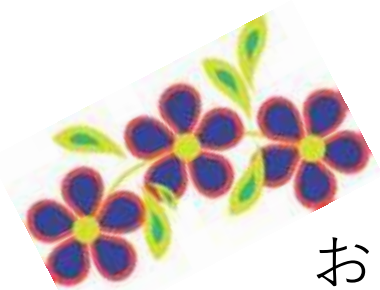
またこのような機会があれば、沢山の方に盲ろう者について知っていただけたら良いなと思います。今回、ご協力いただいた通訳介助者の方、ボランティアとして支援して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

半田和美

3月5日、松山市総合福祉センターで開催された「耳の日」のつどいに、参加しました。友の会は、触手話、指点字、わきちジャンケンの、3つの体験コーナーを作りました。触手話では、「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」の、手話を伝えます。指点字では、ホワイトボードに書かれた来場者の名前を、通訳者が盲ろう者に伝えて、盲ろう者が答え

ます。わきちジャンケンでは、やり方を説明して来場者とジャンケンをします。

参加盲ろう者は、二宮さん、稲葉親子の3人です。他には、ボランティアの浅井夫妻と、相原さん、通訳ガイド3人です。みんなでドキドキしながら来場者を待ちました。予想よりたくさんの方が来られました。下は4歳から、上は80歳？盲ろう者3人は、丁寧に笑顔で、来場者と話をしました。来場者も、興味深く楽しく参加されていました。盲ろう者のコミュニケーション手段や、えひめ盲ろう者友の会について、知ってもらうための良い機会になったと思います。夕方、あいテレビのニュースにも、ちょこっと、盲ろう者3人の顔が出ていました。



お花見交流会



日時 : 平成29年4月9日(日曜日) 13:00~15:00

場所 : 奥道後ホテル 野外

報告者 : 中西信廣(雨だれがえる)

朝、6時50分にベー(中西のこと)が四国中央市の家を出ると、外はなんと土砂降り……。『桜は咲いているのに建物の中でのお花見になるのか……。残念……。』と思いきや、皆様の心がけの良さか、現地の松山は降っていません、ラッキー！！

総会も無事終わり、お迎えのバスに乗り込み、奥道後に向けて、いざ！出発！！子ども2名を含む23名の方々が参加。昨年は、バスに花吹雪がかかる寒い日でしたが、今年は、ちょうど満開の見ごろで、暖かく穏やかな日でした。理事長の挨拶の後、春樹さんの「乾杯の音頭」でグラスを〔ガチャリ！〕宴会が始まりました。

お弁当は豪華二段重ね。下の段には、いろいろなおかずやデザートが、上の段には、お寿司が入ったものでした。皆さん、ビールやお酒や飲み物を、飲んだり食べたり話したり……。あっという間の2時間でした。

満開の桜の中、大変楽しい交流会ができました。皆さん、桜パワ―と楽しいひと時を持ち、帰路につかれたと思います。来年も、桜満開の中、会いたいですね。この紙面をお借りし、ベ―をバックアップして下さった時岡さん、通訳ガイドの皆様、会員の皆様、盲ろう者の皆様、そして、太陽と満開の桜に感謝し、「お花見交流会」の報告させていただきます。皆様、本当にお疲れさまでした。また、お会いしましょう！！



参加者から感想をいただきました

平尾裕美

平成29年度えひめ盲ろう者友の会の総会（4月9日）も無事終わり、12時30分、奥道後バスのお迎えでお花見に出発です。23名の参加です。桜の咲き具合はどうか…と思う間もなくバスの中では、早くも何人かで宴会の始まりです。車窓より桜を眺めながら、奥道後に到着です。高橋会長の「飲んで食べておしゃべりして、楽しみましょう」のあいさつ通り、美味しいお弁当を頂き、おしゃべりも盛り上がりしました。〇〇さんが「桜餅と団子は食べられない」と言うので、私が二人分食べちゃいました（美味しかったよ）。帰りの時間も近づき、さくらの花びらの舞う中をのんびりと歩いてバスへと向かいました。

天気の良いのも今日だけだそうで、明日は雨の予報です。今日は暖かく満開の桜の花見も出来て良かったです。日頃から皆さんが頑張っているの、神様が素敵な桜のプレゼントをくださったのですね。楽しい1日をありがとうございました。

高須賀佳子

4月9日、総会の後、恒例のお花見に奥道後に行きました。天気も良く、まさにお花見にぴったりの日でした。桜は5分咲きくらいでしたが、山の中腹が桜色で美しかったです。しかし、これをうまく音声通訳できたかは、わかりません。会場に着くと、皆さん、さっそくビールを注文。乾杯の前にすでにお弁当を食べている人や、ビールをひっくり返す人もいましたが、それらすべてが面白くて楽しくて、友の会ならではののんびりした雰囲気でした。私は、四国中央市の菅原さんや、春樹さん、柳井さん、平尾さんとおしゃべりしながらお弁当をたிரけてしまいました。でも、そのあとのお菓子も食べてしまいました。あっという間に時間がきて、お話できなかった人もいたので、少し残念でした。今年度も、機会があれば、もっと交流の場に参加しようと思いました。



渡辺やす子

4月9日、総会とお花見に参加した。視覚障害の方々と一緒に遊んで20年余。この会は4年。「ありがとう」「お疲れさま」「感謝」の言葉が出て来る優しい人たちの中にと心地良い。

この日、天候に恵まれ、満開の桜の中でのお花見。ビールを飲み美味しい弁当に舌鼓。最高！「議長、話上手くなったよなあ。」誉め言葉。理事長の「飲んでるかあ？」「〇〇さん、確か飲めたよなあ？」の問いかけに「まだまだ、俺ビール党。ビールちょうだい。」「待ってました！いただきます～す！」どこでも聞く駆け引き。仲間意識有り、笑顔有り、協力有り、盲導犬の愛くるしい顔・・・癒される。私は、楽しみに鬼北町の山の中から出てくる。



盲ろうコミュニケーションクラブ（MCクラブ）

報告者： 稲葉哲也

昨年5月より始めた、盲ろうコミュニケーションクラブ(以後MCクラブという)では、毎月1回 指点字の練習を行ってきました。多い時には20人弱、少ない時には10人ほどでしたが、なんとか一年間続けることができ、ほっとしてるところです。

始めは、指点字の基礎から学び、まずは盲ろう者と支援者でペアを組み、お互いがぎこちなくやりとりしていましたが、次第に上達し、新聞記事に挑戦してみることにしました。普通の会話文とはちがって、難しい言葉や文章表現、読みとるには至難の業。『少し早かったかなあ』と心配しましたが、逆に、難しいことから始めたので、それぞれのペアで日常会話に切り替えた途端、みなさんスムーズにやりとりが出来、安堵しました。

もう何年前になるのか・・・高橋理事長に「指点字覚えたら？」と言われ、それまで使っていたライトブレーラー(カニタイプ)からパーキンス製のライトブレーラーに換えて練習をしました。

そして、ニューリーダー研修会に参加した時に、東京の藤鹿さん、岡山の浅井さんと直接、指点字を使って話をすることができ感動を味わいました。その後も、いろいろな集まりで多くの方々と指点字での交流を深めています。私の聴力も、少しずつ低下していることを自分自身感じてきたので『将来に向けて、今度は私が指点字を読みとることができるようにならなくてはいけない』と思うようになり、昨年5月から始めました。いざ、始めてみると、みなさんとても熱心で、特に、初めて点字を覚える人たちは、日頃表やパソコンを使って練習をされているとのこと、すばらしい上達！！今では、こちらがうまく読みとれず、再度書いてもらうことが何度かあります。また、支援者だけではなく、参加している盲ろう者も、私よりはるかに読み書きが上手で、私が一番の劣等生だということが解り、とてもショックを受けているMCクラブの現状です。

さて、これからのMCクラブですが、もっともっと早く読みとれるよう、また、正確に伝えることができるように練習を重ねたいと思っています。さらに、他のコミュニケーション手段である、触手話、手のひら書きなどにもチャレンジして、盲ろう者同士が直接会話ができるようになりたいと思っています。それに加えて、個々の能力に応じたIT機器の活用にも取り組み中です。

最後になりましたが、これからもMCクラブへご支援ご協力いただきますようによろしくお願いします。ありがとうございます。



参加者から感想をいただきました

中嶋寧（ねい）

私はお母さんと、お兄ちゃんと一緒に指点字の練習に行っています。はじめはドキドキしました。でも、みんな優しくだったのでほっとしました。練習では、質問された答えを指点字で打ちます。するとみんな「上手だね」とほめてくれます。うれしいです。それに練習に行くと、フォ

リーに会えて撫でたりできるのも楽しいです。いまはまだ、プリントを見ながら打っています。これからもっと練習して、プリントを見なくてもすらすら打てるようになりたいです。

中嶋 滉（こう）

ぼくは、母が盲学校で働いている関係で、MCクラブに参加しました。点字は学校で少し習ったくらいでほとんど知らなかったの、指で点字を打つという高度なことはとてもできるとは思えず不安でした。しかし、盲ろうの方とコミュニケーションを取るためには役に立つものだと思うので練習することにしました。

MCクラブでは、五十音の練習や自己紹介から始め、今は新聞記事の内容を指点字で伝えるということをしています。新聞記事の練習に入っただけは、全然打つことができませんでした。しかし、最近では少し打てるようになってきました。ぼくの今の課題は、拗音が打てるようになることです。

このMCクラブに参加して、盲ろう者の方々と会話の方法も知ることができました。まず、名前を言って誰なのかを伝えます。その後、聞こえやすいように大きな声でしゃべります。コミュニケーションには、このような相手の立場に立った気づきがい大切だと気づきました。これからもがんばりたいです。

あいばら

相原ひとみ

友人に誘われ、一緒に指点字の集まりに参加しました。NHKのハートネットTVの番組で、野球中継を盲ろうのご主人に妻が指点字で伝えているのを見ました。二人で盛り上がっていました。半信半疑で見ているのですが、自分の目を閉じ耳をふさいでみると、パニックになりそうでした。同時にこんなに不自由な中でも楽しんでいる状況が印象に残っていて興味があったのです。実際に行ってみると、想像していたよりも明るく楽しい魅力的な人たちの集まりでした。盲ろうの人の手の上に、自分の手を重ね指で文字を打つ・・・なかなか大変でした。わりに、肩と腰に来るんです・・・月に一回のペースが私にはベストでした。自己紹介したり、新聞記事を打ったり、考えながら一文字、一文字。そのうち文章として伝わると楽しくなり、笑ったりしながら学びました。細かい打ち方はまだまだですが、いつかもっと上手になり、この経験が実

際に役に立つときが来ることを楽しみにして続けていきたいと思っています。

谷口富久子

「誰かに親切を示されると、とてもうれしい。でも誰かに親切してあげるほうがもっとうれしい。」そんなことを時折聞くことがあります。このサークルで指点字を学んでいると、本当だなあと感じます。私は手を貸してもらってその方の指に点字を打つことを勉強中です。少しずつ進歩してうれしいです。でも、私以上に幸福そうなのが私に手を貸してくださる方なのです。私はよく打ち間違ったり、打ち方がゆっくりです。なのに手を貸してくださる方は辛抱強く待ってくださるのです。そして指点字で会話をしていて、私の未熟な点字をわかってくれた時、お互いの気持ちがパッとほじけて、「あはは」とか「うふふ」と笑いが飛び出したりします。そして、指点字で会話がはずみます。そんな時、「私以上に幸せそう！」と感じます。その方たちの表情、声が、そして全身が喜びのオーラを出しているからです。それは親切を受けるより、「親切を与えて誰かの役に立っている」喜びかなあと感じています。しっかり学んで私も人の役に立つ幸せな人になろう！



今後の行事予定

MC クラブ

日時 ; 6月24日(土曜日) 10:00 ~ 12:00
7月22日(土曜日) 10:00 ~ 12:00
8月26日(土曜日) 10:00 ~ 12:00
場所 : 愛媛県視聴覚福祉センター ボランティアルーム

7月 交流会

日時 : 7月2日(日曜日) 13:30 ~ 15:30
場所 : 愛媛県身体障がい者福祉センター 体育館

全国盲ろう者大会

8月18日(金曜日) ~ 20日(日曜日)
岩手県花巻市

中四国盲ろう者大会(ピクニック交流会を兼ねています)

11月11日(土曜日) ~ 12日(日曜日)
徳島県

編集後記

中村香苗

目に鮮やかな新緑、若葉のやさしいにおい、すがすがしい風・・・外に出かけるのが楽しい季節になりましたね。先日、松山城のお堀周りを歩いていて、ふっと気付きました。『木々の葉がとってもきれい!!』降りそそぐ日差しを受けてたくさんの若葉が勢いよく芽吹いていました。木陰に入って休んでいると爽やかな風に体も心も癒されるようです。誰に教えられたわけでもなく、こうして気温が上がると芽吹いて木陰をつくり、道行く人々に爽やかさを提供してくれる、ただ黙って……。相手が気づかないようなさりげない優しさをそっと示せる人になりたいな・・・木々から教えられました。

楽しい毎日を過ごせますように。近づく夏と共に、皆様にお会いできる日を楽しみにしています。

特定非営利活動法人 えひめ盲ろう者友の会

〒791-8016 愛媛県松山市久万ノ台594-5

TEL 090-7780-8404

FAX 089-926-0274

E-mail tomonikai@db-tarzan.info

URL <http://www.db-tarzan.info/tomonikai/>

編集責任者 中村香苗 発行責任者 高橋信行

